

DX郡山推進計画

～本編～

2022（令和4）年3月 策定

2023（令和5）年3月 改定



目次

第一編 ～本編～

・本編は、スマホ等のモバイル端末による見やすさを配慮したデザインとしております。

	ページ
1. 計画の位置付け	2
2. 私たちを取り巻く現状と将来予測	3
3. 計画の体系	4
4. 計画の期間	5
5. 計画の構成	6
5.1 Mission -ミッション-	7
5.2 Vision -ビジョン-	8
5.3 Value -バリュー-	9
6. 計画の推進体制	10
7. デジタル田園都市国家構想	11
8. こおりやま広域圏における取り組み	12



計画の位置付け

- ◆ 「郡山市まちづくり基本指針」に基づく、本市のDX推進のための計画
- ◆ 官民データ活用推進基本法（平成28年12月）第9条第3項に規定される「市町村官民データ活用推進計画」

郡山市まちづくり基本指針

「みんなの想いや願いを結び、未来（あす）へとつながるまち 郡山」
～課題解決先進都市 郡山～



DX推進による実現



【本計画】 DX郡山推進計画 2022～2025

【国の関連法等による要請】

官民データ活用推進基本計画
デジタル改革関連6法
自治体DX推進計画
デジタル田園都市構想

【県との連携】

ふくしまICTデータ利活用
社会推進プラン
福島県デジタル変革
(DX) 推進基本方針

【市民や地域のニーズ】

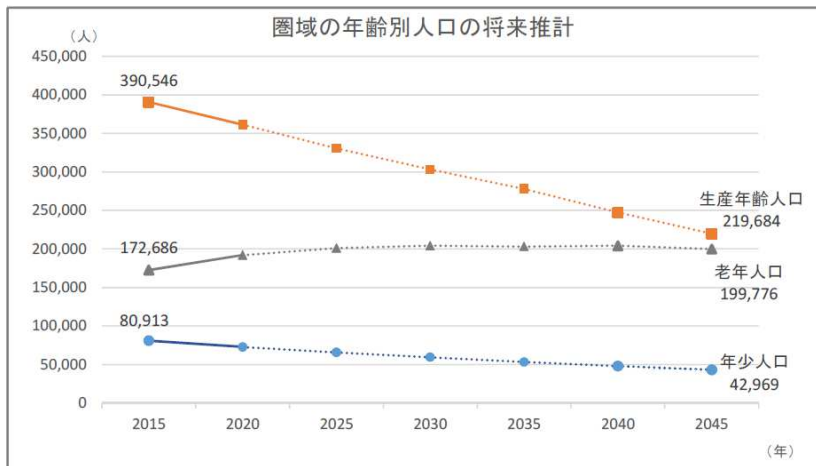
まちづくりネットモニターを用いたアンケート調査
市民や市職員へのインタビュー
に基づく市民、地域のニーズ



私たちを取り巻く現状と将来予測

労働力不足

- ✓ 年少人口・生産年齢人口は年々減少しており、この傾向は今後も続くことが予想され、若年労働力の絶対量が不足します。



出典：総務省「国勢調査（各年次）」
※将来推計人口は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2018年3月）」の福島県推計値準拠により郡山市が独自に推計したものであり、各市町村が策定した総合計画、人口ビジョンにおける将来展望人口等の推計値とは異なる。

SDGsへの世界的な取組みの拡大

- ✓ SDGsとは“誰一人取り残さない”をスローガンに掲げた、2016年から2030年までの国際目標です。
- ✓ 郡山市は、2019年7月1日に「SDGs未来都市」の認定を受け、持続可能な圏域形成を目指しています。

新しい生活様式への対応 デジタル化の遅れ

- ✓ 新型コロナウイルスがもたらした社会・価値観の変容は、日本全体のデジタル化の遅れを浮彫りしました。これらに対応すべく、国ではデジタル庁の設立をはじめとし、業務システムの標準化や行政手続きのオンライン等の環境整備を進めています。
- ✓ 郡山市は、国からの法律等の要請を受けデジタル化を起点とした新しい生活様式の対応、DXの推進が求められています。

デジタル技術の徹底活用による地域課題の解消が求められている。

▶ 課題解決先進都市として、本計画に基づいた戦略的な「アクションプラン」を毎年度策定・実行する必要があります。



計画の体系

○計画の体系における基本的な考え方

- ◆ 戦略的な「アクションプラン」の策定及び実行を促すために実現したい未来像を明確化します。
- ◆ 企業等で広く使われている体系(=MVV (ミッション・ビジョン・バリュー)) で表現します。

DX郡山推進計画の体系 (2022-2025)

Mission ミッション

市民や、本市に関わる全ての人たちのために、郡山市が担うべき使命・理念を表します。

Vision ビジョン

実現したい未来 (あす) を表します。

Value バリュー

ミッションを踏まえ、ビジョンに定義した実現したい未来のため策定・実行する「アクションプラン」の共通の価値観 (ルール) を表します。

○MVV (ミッション・ビジョン・バリュー) とは

未来の社会における課題や背景に対して、組織の存在意義や方向性を位置付けるものとして、経営学者のピーター・F・ドラッカーが提唱したものです。デジタル庁や他自治体・民間企業で広く使われている体系です。



計画の期間

- ✓ 推進期間は、2022年4月から2026年3月までの4年間とします。
- ✓ 毎年度、状況に応じて見直すものとします。
- ✓ 国が進める『デジタル田園都市国家構想』等の進展に応じ計画を見直すものとします。

期間		2018 -2021	2022	2023	2024	2025
郡山市	デジタル市役所推進計画	2018-2021	継承			
	DX郡山推進計画	★ 策定	◎適宜見直し	◎適宜見直し	◎適宜見直し	◎適宜見直し
	まちづくり基本指針	前期計画		後期計画		
	郡山市行財政改革大綱			大綱2022		
国	官民データ活用推進基本計画	現計画 IT基本法★	新重点計画	重点計画2022		
	デジタルガバメント実行計画			デジタル社会形成基本法		
	自治体DX推進計画					



計画の構成

Mission
-ミッション-
使命

誰もがデジタルの恩恵を受ける「こおりやま」の実現
～ てのひらの上のデジタル市役所 ～

Vision
-ビジョン-
実現したい未来

「KaaS - Koriyama as a Service -」の提供

誰もがデジタルの恩恵を受ける「こおりやま」を実現するため、市民・事業者・市役所・その他のあらゆる関係者が有機的に連携し、満足度を向上させるサービスが提供できていること。

Vision 1

市民サービスの
向上

Vision 2

行政事務の
効率化

Vision 3

生活の質
の向上

5レス（カウンターレス、キャッシュレス、ムーブレス、ペーパーレス、ファイルレス）の推進
進捗状況を毎年度数値化することで、ビジョンの達成度合いを可視化します。

Value
-バリュー-
施策実施のための
共通の価値観

Value 1

バック
キャスト思考

Value 2

デザイン
思考

Value 3

ユーザ
オリエン
テッド

Value 4

BPR
（業務改革）

Value 5

情報
セキュリティ
の確保

▶ ミッション・ビジョンに沿ったアクションプランの策定・実行



Mission -ミッション- 使命

誰もがデジタルの恩恵を受ける「こおりやま」の実現

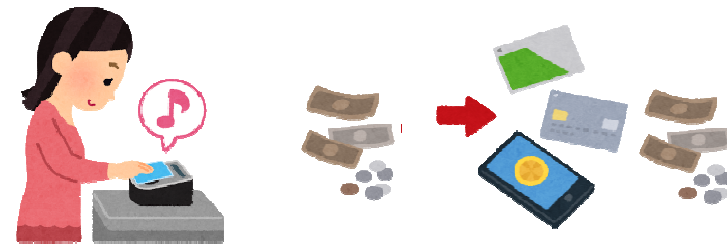
てのひらの上のデジタル市役所

プラットフォームをスマホへ（スマホファースト）



市民サービスの向上

場所や時間を選ばない利用者中心のサービス提供



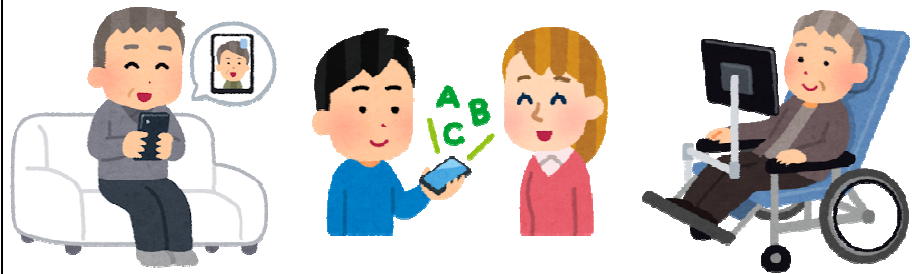
行政事務の効率化

デジタルを徹底活用した事務処理によるムダの排除



生活の質の向上

だれでもデジタルの恩恵を受けられる社会の実現





Vision -ビジョン- 実現したい未来

実現したい未来は次の3つの「Vision -実現したい未来-」で表現します。

項目	ねらい	具体例
Vision 1 市民サービスの向上	「24時間365日」・「どこでも」 (利用者中心) ▲ 時間や場所の制約 (行政の事情)	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインによる行政手続き (マイナンバーの活用含む) ・多チャンネル化 (決済方法、情報の発信) ・電子決済の提供 など
Vision 2 行政事務の効率化	これからの行政 (始まりから終わりまでデジタルで完結) ▲ これまでの行政 (デジタルとアナログの混在)	<ul style="list-style-type: none"> ・業務システムの標準化によるムダ等の削除 ・AI/RPA等を活用した業務の自動化 ・テレワークの推進による多様な働き方の推進 ・デジタル空間を活用したコミュニケーション (web会議等) ・各種台帳の電子化/データ化による検索性の向上 など
Vision 3 生活の質の向上	デジタルの恩恵が高い (わかりやすく使いやすいUI・UX ハンディキャップを感じない) ▲ デジタルの恩恵が低い (知識や技術のハンディキャップが大きい)	デジタルを活用した社会的弱者や支援を必要とする人への配慮 <ul style="list-style-type: none"> ・外国人に配慮した多言語化 ・デジタル福祉機器による障がい者、高齢者等の生活の質の向上 ・子育て世代への各種支援等のプッシュ型の情報提供 ・デジタル活用能力 (機器操作、情報活用、ルール) の習得支援 ・社会復帰のための雇用マッチング等の支援 など



Value -バリュー- 施策実施のための共通の価値観

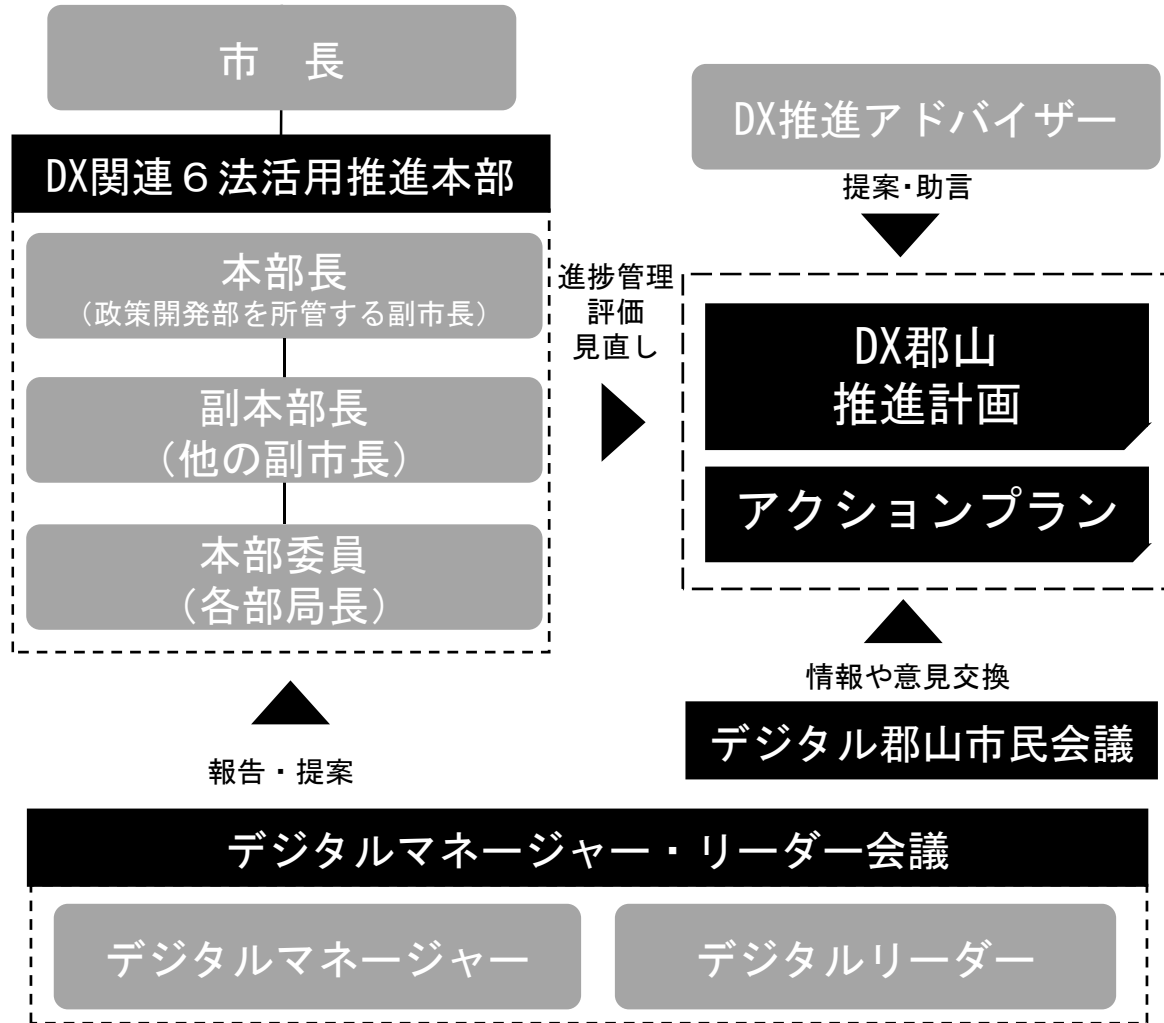
ミッション、ビジョンに沿ったアクションプランを策定・実行するため共通の価値観・基本的な考え方をバリューとして以下のとおり定めます。

バリュー	共通の価値観・基本的な考え方
Value 1 バックキャスト思考	<ul style="list-style-type: none">・根拠に基づいた将来予測を行い、そこから逆算していま行うべき施策を立案する。(EBPM)・将来予見される課題や問題が、すべての人の身に迫る課題や問題であると認識することで、自分事として考え行動する。
Value 2 デザイン思考	<ul style="list-style-type: none">・手段に固執した情報システムではなく、利用者の利便性を第一に考えてサービスを設計する。・一遍にやらずに一貫してやる。
Value 3 ユーザー オリエンテッド	<ul style="list-style-type: none">・サービス提供の始まりから終わりまで一貫した流れを考えているか。(エンドツーエンド)・スマートフォン等、利用者が日常的に接点を持つプラットフォームにおいてサービスを提供する。・利用者の体験を通じてサービスレベルの向上を図る。(ユーザーエクスペリエンス)
Value 4 BPR (業務改革)	<ul style="list-style-type: none">・デジタルを徹底活用し、業務プロセスの最適化を常に考える。・変化を恐れず果敢に挑戦し、素早く改善できるようにする。・これまでの働き方の価値観にとらわれず、業務効率化、コミュニケーションの活性化を図る。
Value 5 情報セキュリティの 確保	<ul style="list-style-type: none">・マイナンバーをはじめとした個人情報の保護を徹底する。・多種多様化する外部からの脅威に対する適切な対策を実施する。・各種関係法令等を遵守する。



計画の推進体制

DXを推進するため体制は下図のとおりとします。



役割

【DX関連6法活用推進本部】

本市のDXの推進、必要な事項の協議

【デジタルマネージャー・デジタルリーダー】

DXの推進、自治体の情報システムの標準化に関する各部署間及び各所属間との連携、調整

【DX推進アドバイザー（外部委員）】

本市のDX推進計画及び計画を具現化する事務事業のアクションプランの策定にあたっての提案及び助言



デジタル田園都市国家構想

2022（令和4）年6月に「デジタル田園都市国家構想」の基本方針が国において定められました。

「デジタル田園都市国家構想」の基本方針	DX郡山推進計画のミッション（使命）
「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指して	誰もがデジタルの恩恵を受ける「こおりやま」の実現

▶ 概ね同一の使命であることから、「デジタル田園都市国家構想」の動向について、常に注視し、本市のDXの実現を推進していきます。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
		デジタル田園都市国家構想に基づく、全国事例の集約	全国事例等を参考とした各部局における事業化の検討				
		★本部会（情報共有）	DX戦略課における予算の調整（アクションプランに計上）			★予算要求	



こおりやま広域圏における取り組み

本市はこおりやま広域圏の中心市であることから、本計画により推進するDXの各種取り組みを広域圏構成自治体に展開するなど、広域圏全体を牽引していきます。

これまでの取り組み

- ◆ 情報システムに関する意見交換
- ◆ 若手自治体職員のDXを活用した政策立案（チャレンジ市役所新発想研究塾）
- ◆ RPAの活用を通じた自治体間の連携

これからの取り組み

- ◆ ガバメントクラウドを契機とした自治体クラウドの利用検討
- ◆ ICTに関する新技術活用の利用検討 等

策定：2022年（令和4年）3月

改定：2023年（令和5年）3月 改定

郡山市

（連絡先：郡山市DX戦略課 TEL:024-924-2511）

E-mail:dx-st@city.koriyama.lg.jp